

Case : 181

ベッドと壁の隙間に体が挟まってしまい、抜けなくなってしまう

場面の説明

ベッドの柵（サイドレール）を設置していなかったため、壁とベッドの隙間に落ちてしまった



利用シーン	 起居・就寝  夜間
主な利用場所	 寝室
介護保険の種目	 特殊寝台
分類コード (CCTA95)	181209 (電動ギャッチベッド)
介護テクノロジー	—
二次元バーコード	

解説

狭い部屋ではベッドが壁際に置かれていることは良くあります。「壁際だから柵は不要」と考えてしまったことがこのヒヤリ・ハットの原因となってしまいました。壁際に置いたベッドでも、少しずつズレたり、布団のための隙間を設けたりします。壁との間には身体がはまってしまいう隙間ができやすいので、壁際でもベッドの柵（サイドレール）は利用するようにしましょう。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

- 人：寝相が悪かった
- 人：転落防止対策を怠った
- 環境：ベッドと壁に利用者が墜落する隙間があった